

## 出会いと学びと

高橋 実



私の全障研との出会いは、  
大学2年（1978年）の時、  
まさに養護学校義務化の前年  
のことでした。サークルの仲  
間とともに全障研全国大会に  
出かけました。義務化反対の  
人たちが、会場前に詰め掛け  
騒然とした雰囲気であったこ  
とを思い出します。

サークルでボランティアに  
通っていた施設の重度障害児  
の常同行動をテーマに卒業論  
文を書いたことを契機に心理  
学の専攻から障害児教育の大  
学院へと進学しました。大学  
院でも知的障害児施設に通

い、常同行動をしている障害  
児への療育的働きかけを行  
い、その効果を修士論文にし  
ました。そして、1983年  
に東京都杉並区の障害者施設  
に心理職として勤めることと  
なりました。国際障害者年の  
行動計画が日本にも浸透し、  
障害者施策の充実が図られて  
いた時代でした。そこで成人  
期の障害者の発達と労働の問  
題に試行錯誤しながら取り組  
むと同時に、全国事務局とし  
て全国大会の運営業務やみ  
んなのねがいの編集部員など  
を務めさせていただきました。

ちょうど10年間務めた頃、  
もう一度障害者の発達研究を  
行ってみたという思いが募  
り、故田中昌人先生にお手紙  
を書き、研究生として勉強さ  
せていただくことになりました  
。同時に故加藤直樹先生に  
お願いして、大阪の障害者作  
業所を紹介いただき、発達相  
談員として働きました。

3年頃、短大に四年制大学化  
の計画が持ち上がり、大学設  
置の仕事に携わることとなり  
ました。大学設置が大詰めに  
入る頃、広島で全国大会の開  
催を引き受けることとなりま  
した。とても大きな不安が、  
ありましたが、2012年広  
島大会は、乳幼児関係、その家  
族、学校関係の先生、当事者、  
障害者作業所の方々がみごと  
に結集し、無事成功させるこ  
とができました。四年制大学  
の方も、今年はじめての卒業  
生を出すことができました。

現在は、保育士・幼稚園教  
諭、小学校・特別支援学校教  
諭の卵の学生たちと楽しく勉  
学に励むとともに広島支部、  
福山サークルのみなさんとも  
定期的にお会いし、地道に活  
動しています。

（広島 大学教員）